

教 育 研 究 業 績 書

令和 4年 3月 31日

氏名 川本 裕子 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
成人看護学・高齢者看護学	リハビリテーション、下肢人工関節置換術、回復過程、生活の再構築	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 TA（文部科学省管轄の4年制大学） 非常勤講師（文部科学省管轄の4年制大学） 臨地実習教員（文部科学省管轄の4年制大学） 非常勤講師（本学） 非常勤講師（本学） 非常勤講師（本学） 非常勤講師（本学） 非常勤講師（本学） 非常勤講師（本学）	2011～2013 2012年2月 2016年2月 2017年6月 2017年9月～ 2018年4月 2019年4月～ 2019年7月 2019年9月～	成人看護学実習Ⅰにおける実習を担当 基礎看護学実習Ⅱにおける実習を担当 老年看護学実習Ⅰにおける実習を担当 老年看護学実践実習Ⅱにおける実習を担当 成人看護学実践実習Ⅱにおける実習を担当 老年看護学実践実習Ⅱにおける実習を担当 老年看護学実践実習Ⅱにおける実習を担当 総合看護学実践実習における実習を担当 老年看護学実践実習Ⅰにおける実習を担当
5 その他 看護研究指導 出張講義（高大連携事業） 出張講義（高大連携事業） 看護研究指導 論文作成研修会講師 国際交流プロジェクト（タイ・コンケン大学看護学部）	2006年度 2006年11月 2007年9月 2007年度 2007年10月 2008年3月	院内看護研究に対して指導 高校生に講義・演習を実施（一次救命法） 高校生に講義・演習を実施（身近に感じる看護） 院内看護研究に対して指導 院内論文作成研修会にて研修会を担当・講評 学部間国際交流の可能性について現地を訪問・視察し、意見交換を行った。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ・看護師免許 ・保健師免許 ・第一衛生管理者免許 ・養護教諭2種免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 NPO法人 のぞみ会 山梨支部 オブザーバー 日本運動器看護学会 査読委員	2006年4月 2009年6月	

日本運動器看護学会 学会誌編集委員 第41回 日本股関節学会学術集会 一般演題（看護）6 座長	～2014年 5月 2014年 6月～ 2014年 10月	
4 その他 NPO法人 のぞみ会 山梨支部 会報：のぞみ山梨 第4号 巻頭言 NPO法人 のぞみ会 山梨支部 第3回交流会 講師	2007年 10月 2007年 10月 28日	英国ロンドンへの海外研修で見聞した股関節医療事情について紹介。 「より快適に、より自分らしく生きるために」をテーマに変形性股関節症に罹患された方と交流の場を得た。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 2 3				
(学術論文) 1. 人工股関節置換術患者の術前床上体験学習に伴う不安・緊張状態の変動－非体験群との比較－ 2. 人工股関節置換術後の生活状況について 3. 下肢人工関節置換術を受けた患者の身体活動機能と自己肯定感の関係 4. 下肢人工関節置換術後患者の回復過程における身体活動機能と自己肯定感の変化	単著 共著 共著 単著	2005. 3 33, 11-12, 2007 11 (2) , 23-29, 2013 2015. 3	修士論文 Hip Joint 山梨大学看護学会誌 博士論文	食事・排泄・洗面においては、体験学習が効果的であるが、体位変換はその効果ははっきりせず、体験学習に加えて実施の際には熟練したケアを行うことが望ましいことを明らかにした。 人工股関節置換術後の日常生活について、術後の除痛効果は特に大きく、歩行能力の改善や身体活動も高まり満足度が高いことを確認した。 術後の身体活動機能が回復すると患者の自己肯定意識は高まるという正の相関関係があることを明らかにした。 患者の身体活動機能と自己肯定感について、術前から退院まで縦断調査を行い、患者の回復過程のパターンを明らかにした。
(学会発表) 1. 人工股関節置換術患者の術前床上体験学習に伴う不安・緊張状態の変動	単著	2005. 11	第25回日本看護科学学会学術集会（青森）	体験群の不安・緊張得点は、術後の床上生活動作（食事、排泄、体位変換、洗面）の4項目全て変動の傾向は類似していたが、体位変換は術前の床上生活動作想定時と比較し術後2回目体験後には有意に低下しており、体位変換に伴う不安・緊張状態の変動が大きいことを示唆した。
2. 人工股関節置換術患者の術前床上体験学習後の	単著	2006. 12	第26回日本看護科学学会（兵庫）	人工股関節置換術患者を対象に、予め術前に床上生活動作の体験学習を行な

<p>床上生活動作に伴う思いに関する特徴</p> <p>3. 人工股関節置換術患者の退院後の日常生活状況における実態</p> <p>4. 諸外国における人工股関節全置換術看護を取り巻く現状からの一考察</p> <p>5. Feature of daily life situation for Total Hip Arthroplasty</p> <p>6. 人工股関節置換術患者の生活適応に関する特徴</p> <p>7. 下肢人工関節置換術後患者の身体活動機能回復の実態 —部位別による比較—</p> <p>8. The Changes in Physical Functions of Joint Arthroplasty Patients During the Recovery Process</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2008. 12</p> <p>2009. 9</p> <p>2010. 9</p> <p>2012. 12</p> <p>2013. 6</p> <p>2015. 10</p>	<p>第 35 回日本股関節学会学術集会（大阪）</p> <p>第 58 回東日本整形災害外科学会（北海道）</p> <p>1St International Conference of the International Collaboration of Orthopaedic Nursing (ICON) (Ireland)</p> <p>第 39 回日本股関節学会学術集会（新潟）</p> <p>第 13 回日本運動器看護学会学術集会（神奈川）</p> <p>ENDA&WANS Congress 2015 (Germany)</p>	<p>った際の床上生活動作に伴う思いの特徴を明らかにした。</p> <p>特に手術効果として期待される除痛は高いことがわかり、手術療法による患者の生活改善への貢献は大きいことを確認した。</p> <p>看護師，理学療法士，作業療法士の 3 職種が毎朝合同のスタッフミーティングを持っており、それぞれが知る患者の情報・状況を共有し、関わりを検討後、患者指導に生かす体制をとっており、パラメディカルスタッフとの日常的な連携を図っている状況にあることを確認した。</p> <p>退院後の日常生活の実態を調査することで、生活の再構築状況が把握でき、今後の継続看護のあり方についての検討・提案だけでなく、治療を含めた援助の方向性も模索できることを示唆した。</p> <p>入院中の人工股関節置換術後患者の身体活動状態と生活活動に伴う自己肯定感の経時的変化と関連について、特徴を明らかにした。</p> <p>手術部位により身体活動機能の回復が異なり、股関節，膝関節の可動域が必要となる身体活動機能は術後の実施困難度も高く、実施可能となるまでの時間も要するものが多いため、看護師は患者の手術部位の回復状況を意識し、身体活動機能回復を促進していくことの必要性を示唆した。</p> <p>下肢人工関節置換術を受けた患者の術前から術後 3 週目までの計 4 回の回復過程における身体活動機能 21 項目の経時的変化を明らかにした。</p>
<p>(その他)</p> <p>海外研修：米国 Mayo Clinic</p> <p>海外研修：英国 St. Thomas hospital Guy's hospital</p> <p>文科省科学研究費若手研究 (B) 採択</p>	<p>研究代表</p>	<p>2006 年 8 月</p> <p>2007 年 8 月</p> <p>2006 年度～ 2009 年度</p>	<p>病院視察やケア見学，看護職へのインタビューを通し、人工股関節置換術患者のケア状況を見聞した。</p> <p>病院視察やケア見学，看護職を含む医療職へのインタビューを通し、人工股関節置換術患者のケア状況を見聞した。</p> <p>人工股関節全置換術患者の日常生活状態把握に関して調査</p>	

<p>文科省科学研究費若手研究（B）採択</p>	<p>研究代表</p>	<p>2012 年度～ 2014 年度</p>	<p>下肢人工関節置換術後患者の回復過程に伴う身体活動状態と生活適応との関連について調査</p>
<p>文科省科学研究費基盤研究（C）採択</p>	<p>研究代表</p>	<p>2015 年度～ 2019 年度</p>	<p>患者の回復過程を促進する患者サポートプログラムの構築に関する研究</p>